

教育をめぐる現状・課題について

1	学力・学習状況	P 1
2	生活習慣・食生活の状況	P 1 1
3	不登校の状況	P 1 5
4	生徒指導上の諸問題	P 2 3
5	外国人児童生徒の教育環境	P 3 5
6	特別支援教育の現状	P 3 7
7	生涯学習社会づくりの現状と課題	P 4 1
8	スポーツ振興の現状と課題	P 5 1
9	家庭（就労・家計）の状況	P 5 3
10	時代の潮流と課題	P 5 5

教科に関する調査結果の本県の概要

小学校国語

国語 A（知識）について、児童の平均正答率が 80.6% であり、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

国語 B（活用）について、児童の平均正答率が 60.0% であり、知識・技能を活用する力に課題がある。

小学校算数

算数 A（知識）について、児童の平均正答率が 80.5% であり、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

算数 B（活用）について、児童の平均正答率が 62.1% であり、知識・技能を活用する力に課題がある。

中学校国語

国語 A（知識）について、生徒の平均正答率が 80.8% であり、相当数の生徒が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

国語 B（活用）について、生徒の平均正答率が 69.0% であり、知識・技能を活用する力に課題がある。

中学校数学

数学 A（知識）について、生徒の平均正答率が 72.5% であり、基礎的・基本的な知識・技能を更に身に付けさせる必要がある。

数学 B（活用）について、生徒の平均正答率が 58.8% であり、知識・技能を活用する力に課題がある。

小学校国語A (知識)

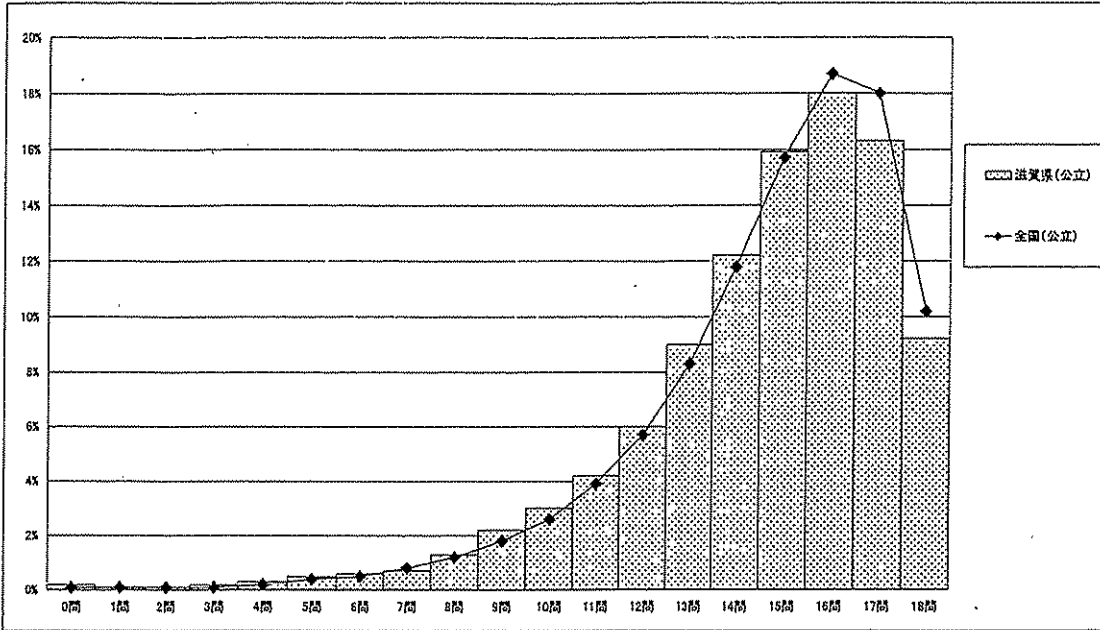
平成19年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況【国語A:主として知識】
滋賀県一県(公立)

・以下の集計値/グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
滋賀県(公立)	13,378	14.5 / 18	80.6	15.0	2.9
全国(公立)	1,125,575	14.7 / 18	81.7	15.0	2.8

正答数集計値 (現答数)	
0問	22
1問	7
2問	10
3問	27
4問	40
5問	67
6問	82
7問	98
8問	176
9問	289
10問	401
11問	563
12問	807
13問	1,210
14問	1,630
15問	2,131
16問	2,413
17問	2,176
18問	1,229

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



小学校国語B (活用)

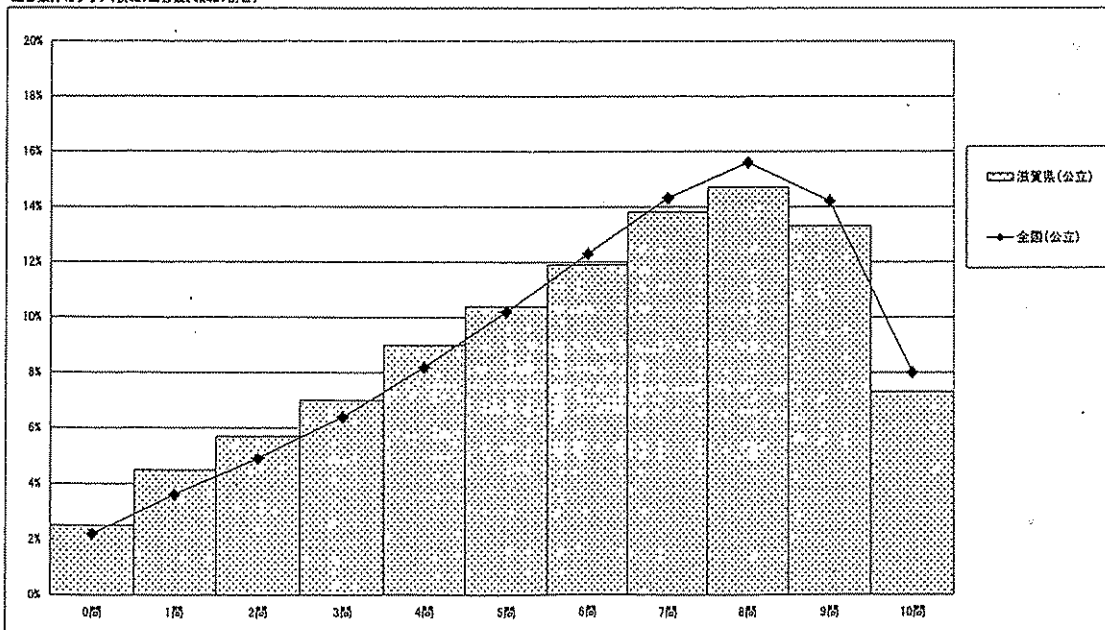
平成19年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況【国語B:主として活用】
滋賀県一県(公立)

・以下の集計値/グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
滋賀県(公立)	13,381	6.0 / 10	60.0	6.0	2.7
全国(公立)	1,125,422	6.2 / 10	62.0	7.0	2.6

正答数集計値 (現答数)	
0問	336
1問	605
2問	764
3問	934
4問	1,197
5問	1,394
6問	1,586
7問	1,849
8問	1,870
9問	1,715
10問	971

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



小学校算数A（知識）

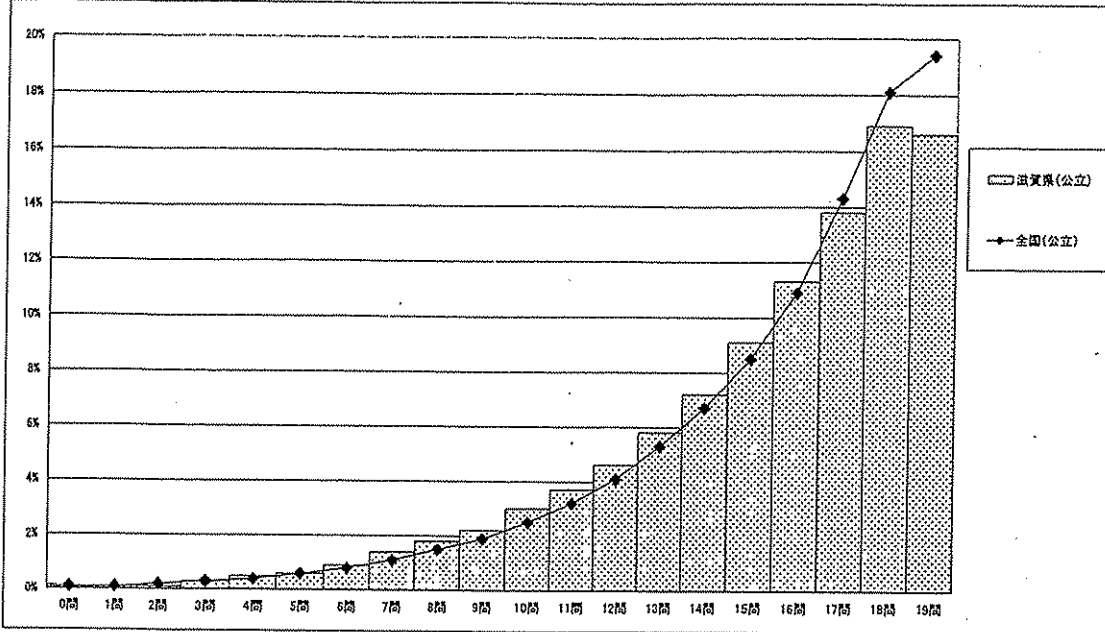
平成19年度全国学力・学習状況調査
 調査結果概況【算数A:主として知識】
 滋賀県一児童(公立)

・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
滋賀県(公立)	13,378	15.3 / 19	80.5	16.0	3.5
全国(公立)	1,125,585	15.6 / 19	82.1	17.0	3.4

正答数集計値(児童数)	
0問	9
1問	18
2問	13
3問	33
4問	63
5問	81
6問	126
7問	192
8問	241
9問	297
10問	396
11問	497
12問	616
13問	773
14問	969
15問	1,213
16問	1,509
17問	1,851
18問	2,250
19問	2,221

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



小学校算数B（活用）

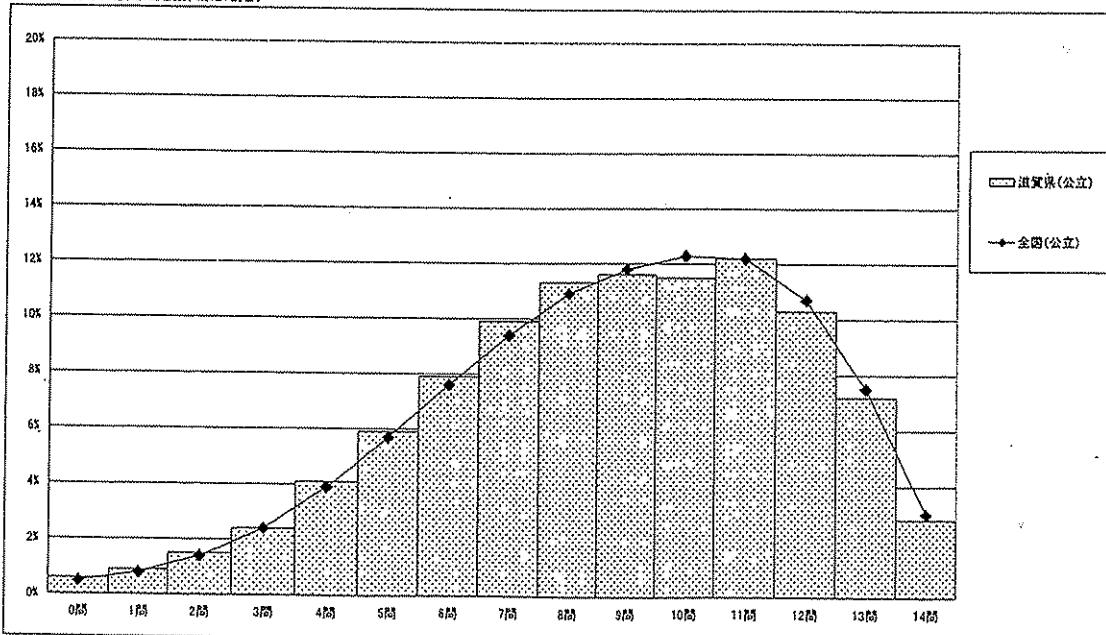
平成19年度全国学力・学習状況調査
 調査結果概況【算数B:主として活用】
 滋賀県一児童(公立)

・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
滋賀県(公立)	13,381	8.7 / 14	62.1	9.0	3.0
全国(公立)	1,125,522	8.9 / 14	63.6	9.0	3.0

正答数集計値(児童数)	
0問	74
1問	119
2問	203
3問	318
4問	542
5問	792
6問	1,051
7問	1,319
8問	1,517
9問	1,533
10問	1,544
11問	1,528
12問	1,378
13問	985
14問	378

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



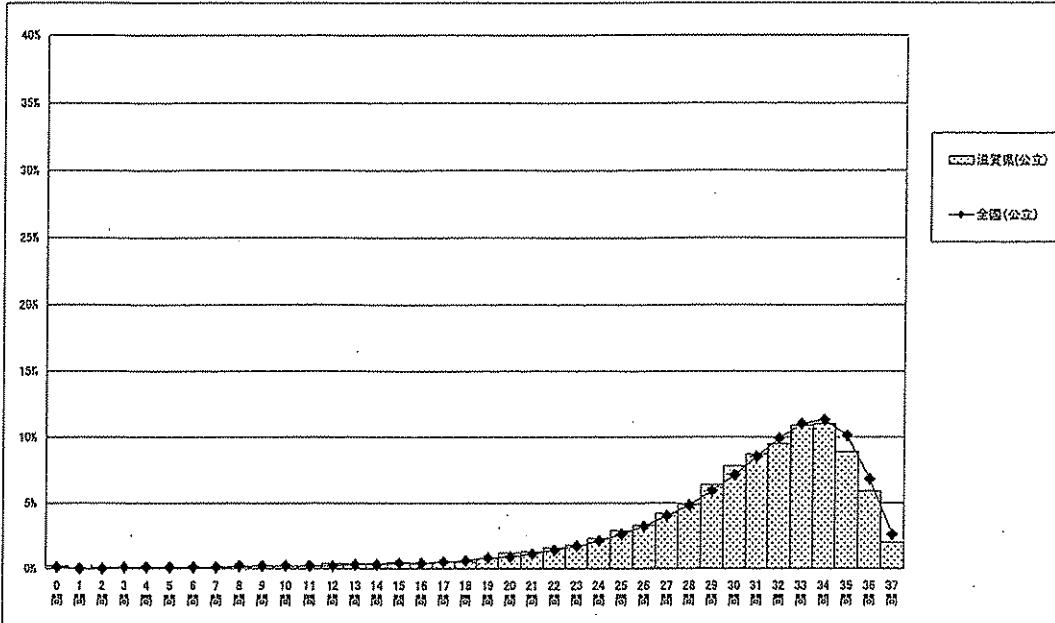
中学校国語A (知識)

平成19年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況【国語A:主として知識】
滋賀県一生涯(公立)

以下の集計値/グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
滋賀県(公立)	10,778	29.9 / 37	80.8	31.0	5.7
全国(公立)	1,022,518	30.2 / 37	81.6	32.0	5.5

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



正答数集計値 (生徒数)	
0問	18
1問	3
2問	7
3問	8
4問	15
5問	13
6問	16
7問	13
8問	15
9問	24
10問	23
11問	21
12問	38
13問	42
14問	38
15問	51
16問	42
17問	54
18問	59
19問	81
20問	127
21問	137
22問	174
23問	193
24問	252
25問	312
26問	354
27問	453
28問	524
29問	693
30問	840
31問	934
32問	1,022
33問	1,178
34問	1,190
35問	960
36問	636
37問	218

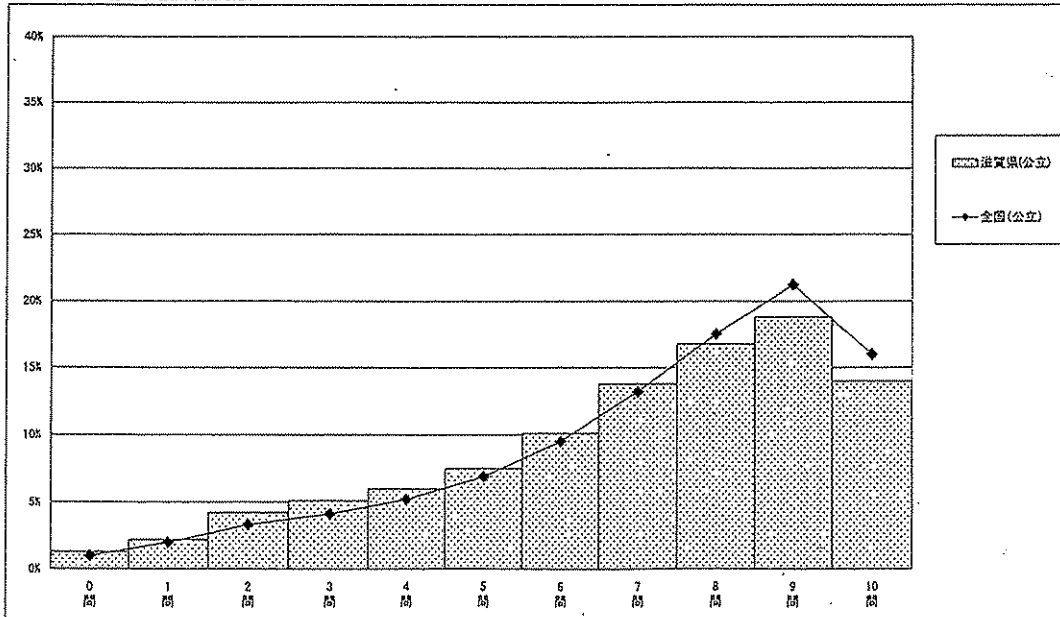
中学校国語B (活用)

平成19年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況【国語B:主として活用】
滋賀県一生涯(公立)

以下の集計値/グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
滋賀県(公立)	10,802	6.9 / 10	69.0	8.0	2.5
全国(公立)	1,023,009	7.2 / 10	72.0	8.0	2.4

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



正答数集計値 (生徒数)	
0問	139
1問	243
2問	455
3問	506
4問	651
5問	809
6問	1,095
7問	1,496
8問	1,817
9問	2,933
10問	1,508

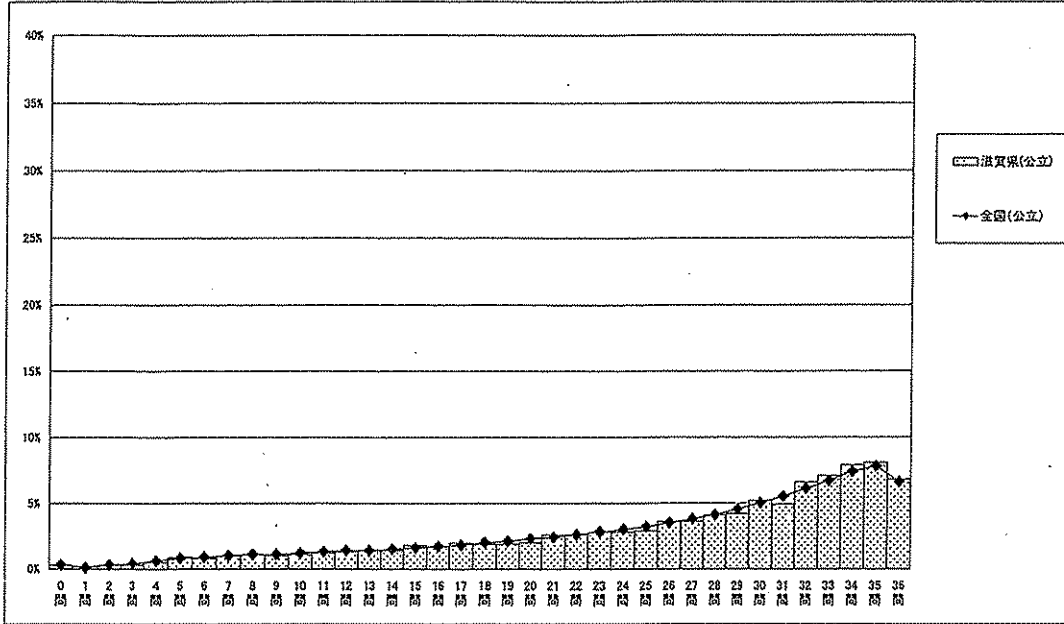
中学校数学A（知識）

平成19年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況【数学A:主として知識】
滋賀県一生涯(公立)

以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
滋賀県(公立)	10,796	26.1 / 36	72.5	29.0	8.7
全国(公立)	1,023,316	25.9 / 36	71.9	29.0	8.7

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



正答数集計値 (生徒数)	
0問	37
1問	19
2問	31
3問	32
4問	45
5問	94
6問	87
7問	103
8問	118
9問	113
10問	118
11問	133
12問	144
13問	156
14問	153
15問	195
16問	167
17問	214
18問	207
19問	210
20問	217
21問	282
22問	277
23問	306
24問	301
25問	313
26問	357
27問	387
28問	438
29問	458
30問	551
31問	531
32問	715
33問	767
34問	853
35問	873
36問	739

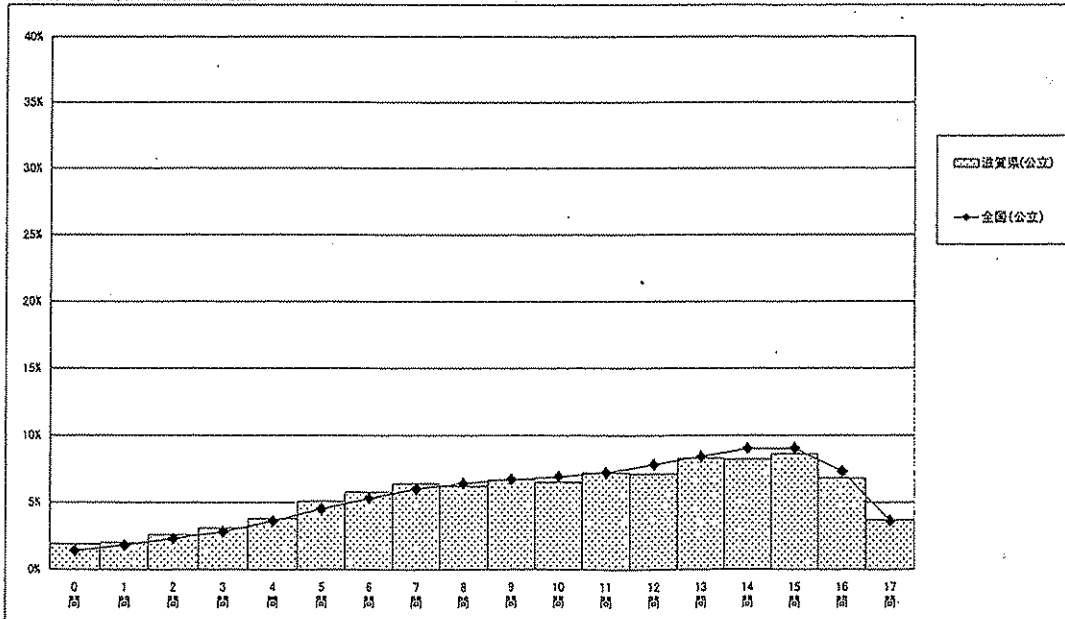
中学校数学B（活用）

平成19年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況【数学B:主として活用】
滋賀県一生涯(公立)

以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
滋賀県(公立)	10,803	10.0 / 17	58.8	11.0	4.5
全国(公立)	1,023,516	10.3 / 17	60.6	11.0	4.3

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



正答数集計値 (生徒数)	
0問	201
1問	218
2問	285
3問	331
4問	411
5問	546
6問	631
7問	688
8問	675
9問	728
10問	766
11問	780
12問	772
13問	898
14問	885
15問	924
16問	730
17問	396

平成19年度

全国学力・学習状況（質問紙）調査からみる

滋賀の子ども

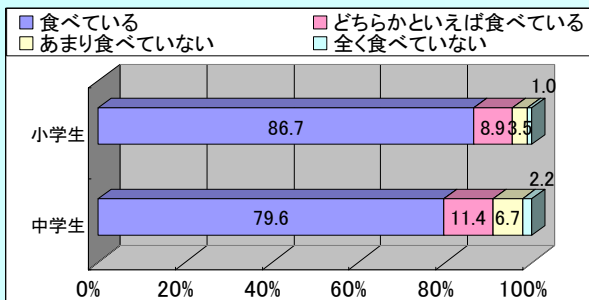
滋賀県教育委員会

子どもの生活習慣について

朝食を食べることや就寝時刻、テレビやビデオを見る時間が学力と関係のあることがうかがえます。

毎日朝食を食べている子どもは9割

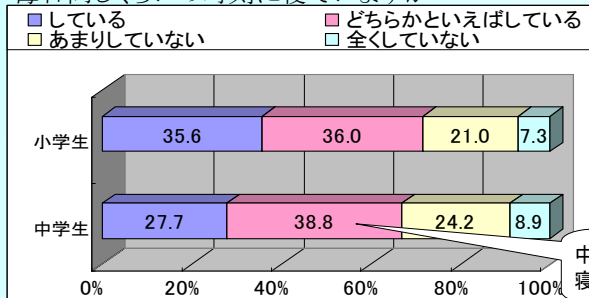
朝食を毎日食べていますか



朝食を毎日食べている子どもの方が正答率の高いことがうかがえます。

中学生の就寝時刻が不規則に

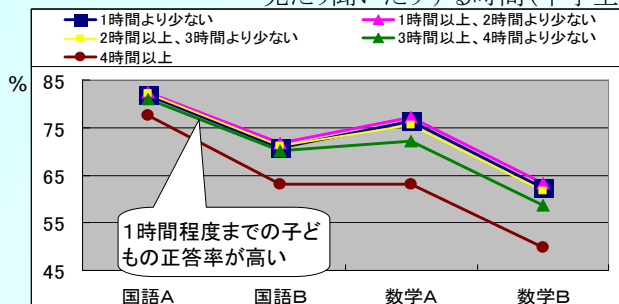
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか



就寝時刻の規則正しい子どもの方が正答率の高いことがうかがえます。

テレビ・ビデオなどの時間が学力に影響

普段、テレビ・ビデオ・DVDを
見たり聞いたりする時間(中学生)

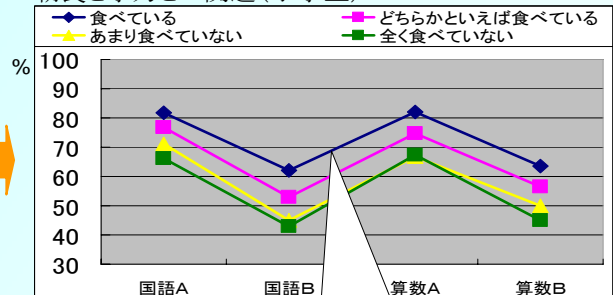


テレビ・ビデオ・DVDは、1時間程度までの子どもの方が正答率の高いことがうかがえます。



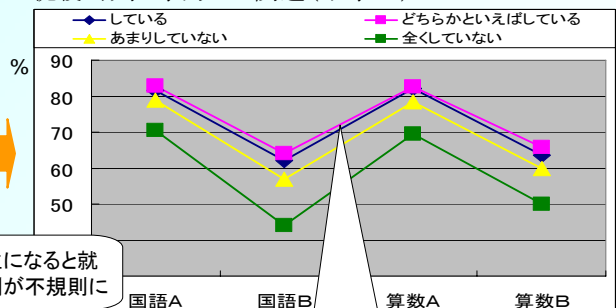
「早寝・早起き・朝ごはん」県民運動

朝食と学力との関連(小学生)



朝食を食べている子どもの正答率が高い

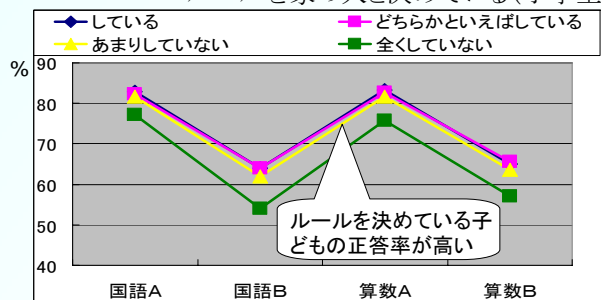
就寝時刻と学力との関連(小学生)



中学生になると就寝時刻が不規則に

寝る時刻の規則正しい子どもの正答率が高い

テレビを見る時間やゲームをする時間などの
ルールを家の人と決めている(小学生)



家の人と時間のルールを決めている子どもの方が正答率の高いことがうかがえます。

支援のポイント

望ましい学習環境づくりのために、簡単な生活リズム表をつくらたりして生活習慣を子どもと一緒に考えましょう。基本的な生活習慣を整え、正しい生活リズムをつくるのが大切です。

(注1) グラフの縦軸は各問題の正答率を示しています。

(注2) グラフの横軸の国語A、算数・数学Aは知識に関する問題、国語B、算数・数学Bは活用に関する問題を示しています。

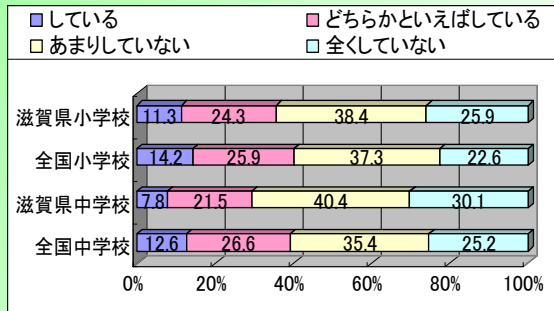
子どもの学習習慣について

全国と比べて復習時間が少ないことがうかがえます。
また、日頃の出来事に興味を持ち、計画的な学習習慣をつけることの大切さがうかがえます。

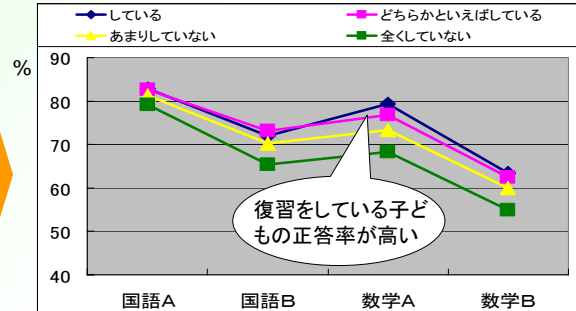


復習や計画的な学習が学力に影響

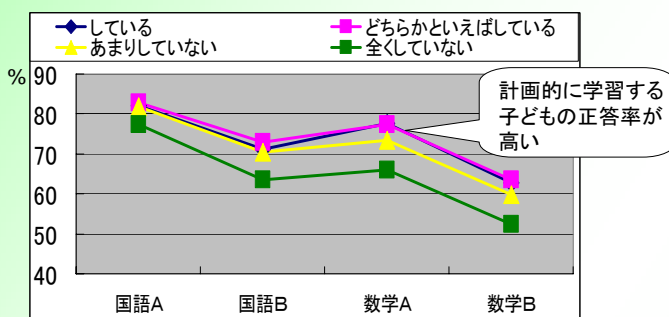
家で学校の授業の復習をしていますか



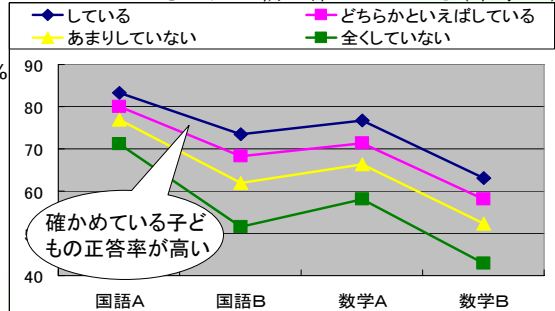
復習することと学力の関連(中学生)



勉強する時間を自分で決めて実行する(中学生)



学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている(中学生)

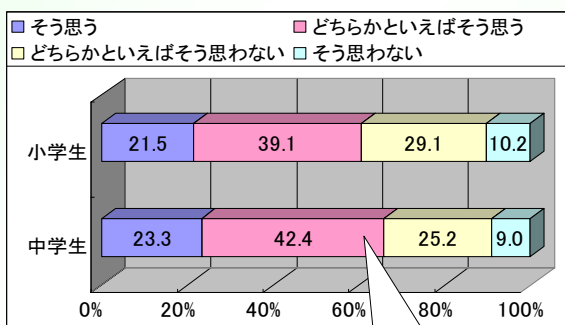


支援のポイント

復習や反復練習などに毎日計画的に取り組ませ、はげましの声かけや確認が大切です。

学習への興味・関心も学力に影響

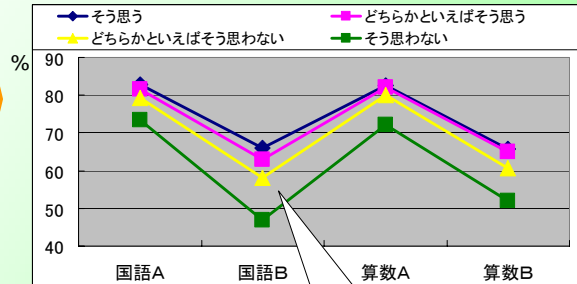
新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか



中学生になると社会への関心が高くなる



新聞やテレビのニュースなどに
関心があることと学力の関連(小学生)



支援のポイント

社会や日頃の出来事を子どもたちに話題提供し、興味・関心を高めることが大切です。

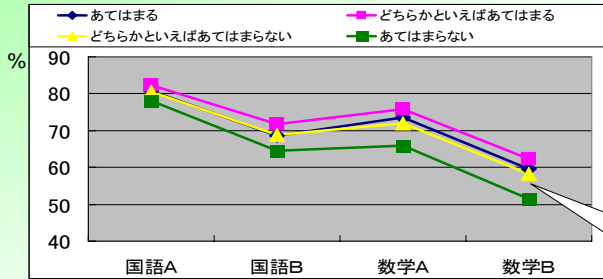
特に、国語Bの問題に正答率の違いが見られる

「認める・ほめる」ことが子どもを育てる

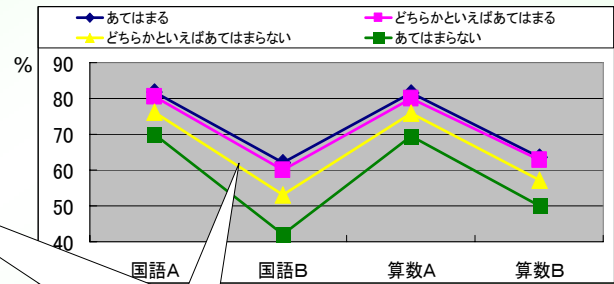
自尊心や自己肯定感が、子どもの学習に取り組む意識と関係あることがうかがえます。



自分にはよいところがあると思いますか(中学生)

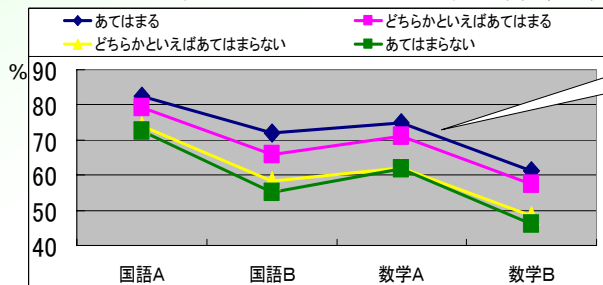


人の役に立つ人間になりたいと思いますか(小学生)



ものごとを最後までやりとげて

うれしかったことがありますか(中学生)



自分のよさに気づいていたり、人の役に立ちたいと思っていたりする子どもの正答率が高い

成功経験が子どもの自己肯定感を生み、学習への自信となっている

支援のポイント

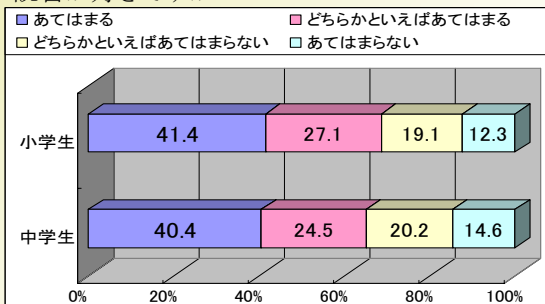
どの子どもにもよいところがあります。そこを積極的に認め、ほめることが大切です。

子どもの読書習慣について

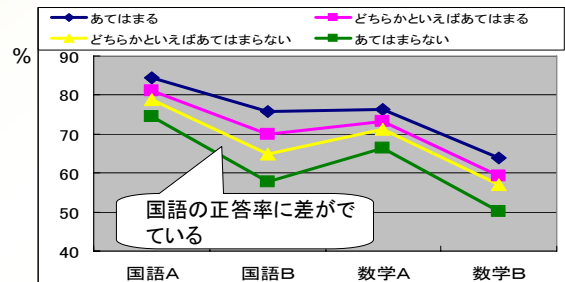
読書の好きな子ども、読書時間の多い子どもの正答率が高い傾向がみられます。また、読書の好きな子どもは、国語の正答率が高いことがうかがえます。



読書が好きですか

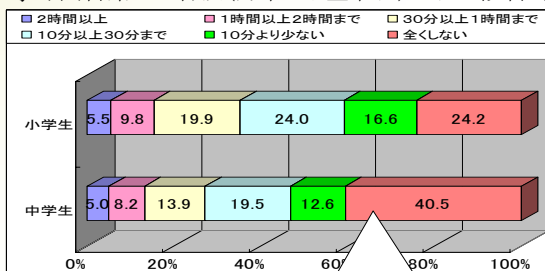


読書が好きなことと学力との関連(中学生)



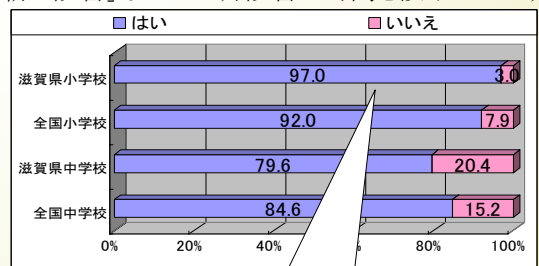
国語の正答率に差がでている

家や図書館での普段(月曜から金曜日)一日の読書時間



読書を全くしない中学生が40%以上みられる

「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか



特に滋賀県の小学校は活発です

支援のポイント

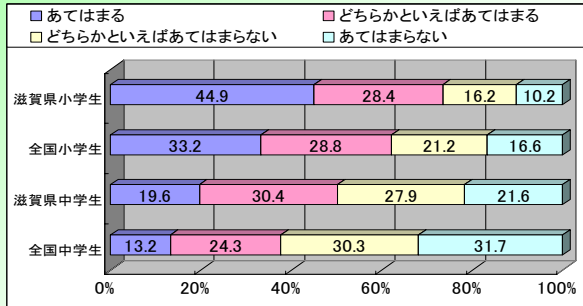
子どもが読書好きになるように、読み聞かせや『滋賀ことのは手引集』などを活用し、子どもが本にふれる機会を多くもつことが大切です。

子どもと地域とのかかわりについて

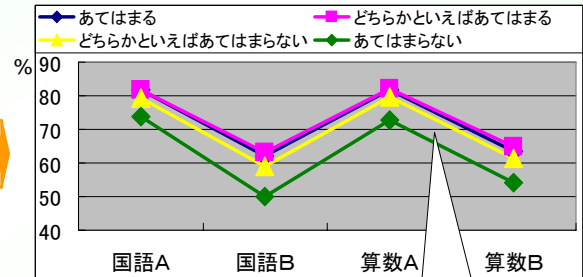
子どもたちが地域に深くかかわり、学校が地域から大きな支援を受けていることがうかがえます。



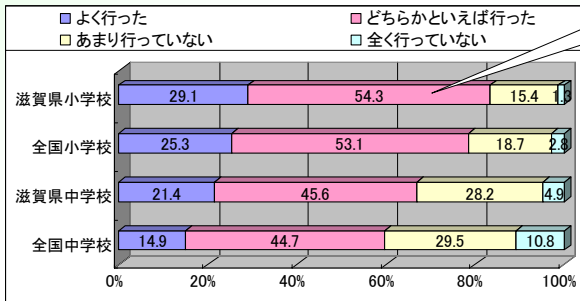
今住んでいる地域の行事に参加した



地域の行事への参加と学力との関連(小学校)



地域の人材を講師として招いた授業を行った(学校質問紙)



全国と比べ、地域の方を招いての授業が活発である

地域行事に参加している子どもは、相対的に正答率が高い

支援のポイント

滋賀県では、学校、家庭、地域が協力して子どもを育てようとしていることがうかがえます。今後も、学校、家庭、地域、企業などが連携した取組を多くの場面で進めていくことが大切です。

=その他の質問について=

子どもたちは、様々な体験をとおして育っていきます。大人が協力して、心豊かでたくましい子どもに育てていくことが大切です。



<学校生活について>

質問項目		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
学校で友達に会うのは楽しいと思うか	滋賀県小学生	82.6	13.8	2.4	1.1
	全国小学生	82.8	13.5	2.6	1.1
	滋賀県中学生	76.4	18.7	3.1	1.6
	全国中学生	76.5	18.0	3.5	1.9
学校で好きな授業があるか	滋賀県小学生	73.6	18.2	5.3	2.9
	全国小学生	77.0	15.7	4.7	2.6
	滋賀県中学生	49.7	26.9	14.4	8.9
学校で楽しみにしている活動があるか	滋賀県小学生	66.2	22.0	8.2	3.5
	全国小学生	69.4	19.3	7.5	3.8
	滋賀県中学生	47.1	26.3	15.8	10.6
	全国中学生	47.7	24.6	15.8	11.7

質問項目		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
学校のきまりを守っているか	滋賀県小学生	27.8	57.3	12.9	2.0
	全国小学生	31.5	54.7	11.9	1.9
	滋賀県中学生	36.1	47.8	12.2	3.7
	全国中学生	40.2	45.5	11.3	3.0
友だちとの約束を守っているか	滋賀県小学生	59.1	37.0	3.2	0.7
	全国小学生	59.5	36.5	3.3	0.6
	滋賀県中学生	56.7	39.0	3.5	0.7
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか	滋賀県小学生	74.0	20.4	4.0	1.6
	全国小学生	76.1	18.6	3.8	1.4
	滋賀県中学生	56.1	30.3	10.0	3.2
	全国中学生	58.7	29.2	8.6	3.1

<生活経験について>

質問項目		何度もある	時々ある	あまりない	全くない
小さい子どもをおんぶやだっこしたり、遊んであげたりしたことがあるか	滋賀県小学生	55.3	21.3	14.0	9.3
	全国小学生	58.2	20.6	13.0	8.2
	滋賀県中学生	44.2	24.6	18.7	12.3
	全国中学生	44.3	24.5	19.1	12.0
体の不自由な人やお年寄りや、困っている人の手助けをしたことがあるか	滋賀県小学生	11.1	23.7	41.1	24.0
	全国小学生	14.5	26.7	37.9	20.7
	滋賀県中学生	11.6	26.8	40.2	21.3
	全国中学生	12.8	26.8	39.2	21.0

質問項目		何度もある	時々ある	あまりない	全くない
海、山、湖、川などで遊んだことがあるか	滋賀県小学生	51.0	31.5	14.9	2.5
	全国小学生	53.7	29.6	14.1	2.6
	滋賀県中学生	55.2	29.4	13.1	2.2
	全国中学生	55.4	28.6	13.9	2.0
清掃活動(草取り、ゴミ拾いなど)へ参加したことがあるか	滋賀県小学生	29.4	27.8	25.2	17.5
	全国小学生	28.1	26.0	25.4	20.4
	滋賀県中学生	23.3	32.2	28.7	15.7
	全国中学生	20.8	29.0	29.5	20.5

※回答の中の“その他”は省いているため、質問ごとの回答率の合計が100%にならない場合があります。

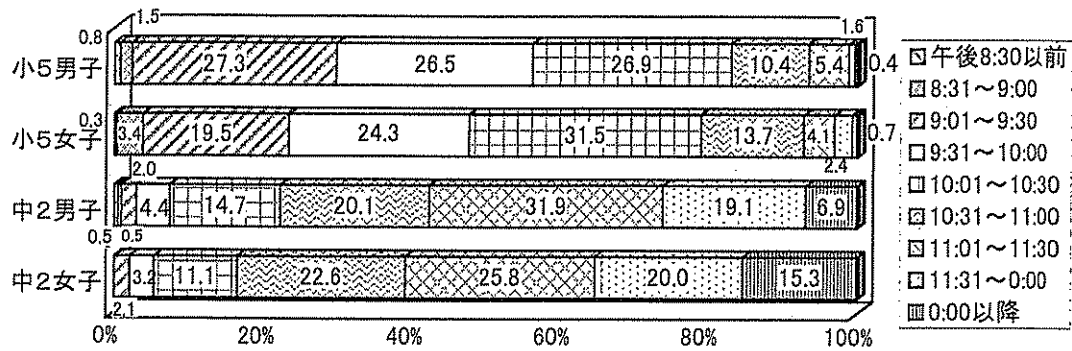
生活習慣・食生活の状況

「児童生徒の食事調査（平成17年度調査）」より

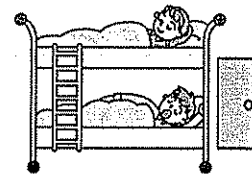
就寝・起床時刻（学校に行く日）

寝る時刻

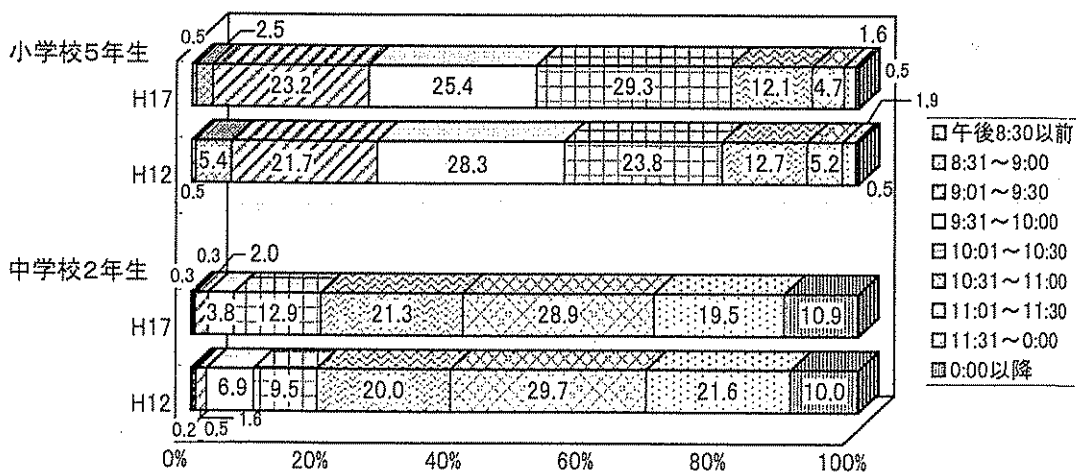
全体的に女子の方が遅くまで起きている傾向がある。
中2女子では、深夜0時以降に寝る生徒が15%いる。



- 小学生は、午後「10時1分～10時30分」に寝るのが29.3%と一番多い。11時以降が6.8%である。
- 中学生は、午後「11時1分～11時30分」が28.9%と一番多く、12時以降は10.9%である。



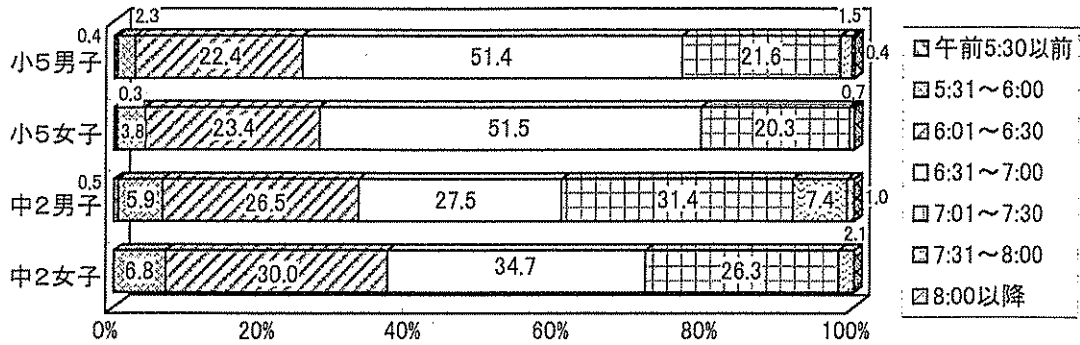
5年前と比較すると、小学生では、寝る時刻が遅くなっている。



- 小学生で、午後10時以降に寝るのは、平成12年44.1%、平成17年48.2%と増えている。

起きる時刻

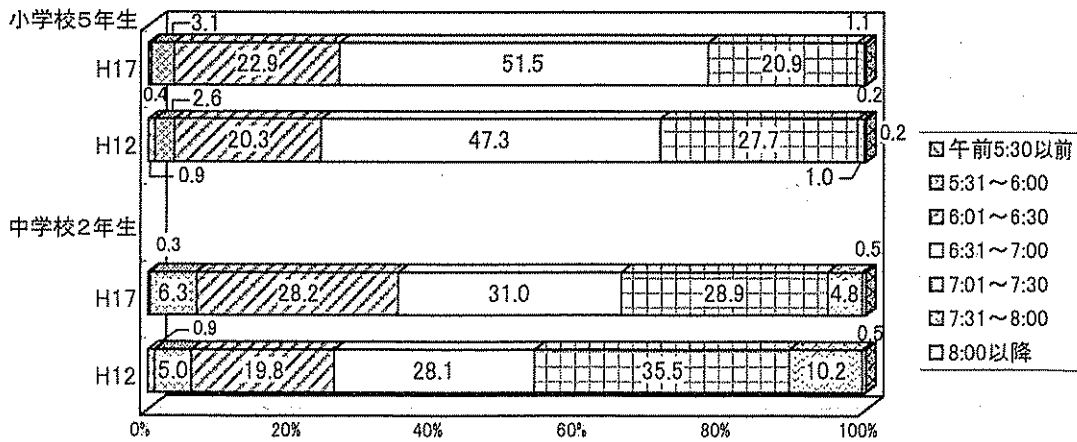
7時までに起きる小学生は約8割、中学生は約7割である。



- 小学生は、午前「6時31分～7時」に起きるのが51.5%と一番多い。
- 中学生も、午前「6時31分～7時」に起きるのが31.0%と一番多い。



小学生、中学生とも、起きる時刻が早くなっている。
中学生の1/3は6時半までに起きている。



- 午前7時までに起きるのは、小学生77.9%、中学生65.8%と平成12年に比べ増えている。

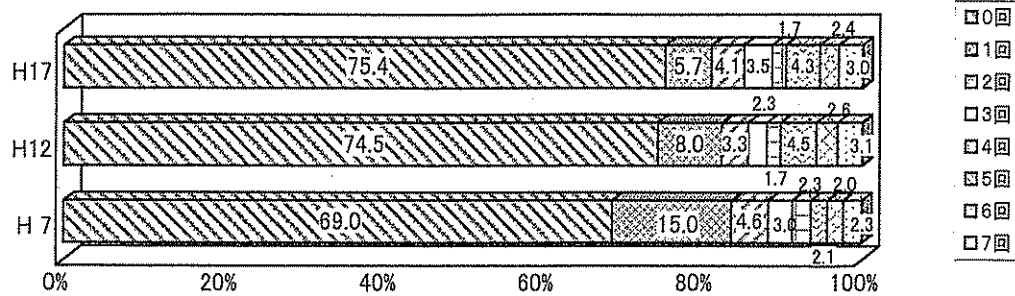


一人での食事（週に何回）

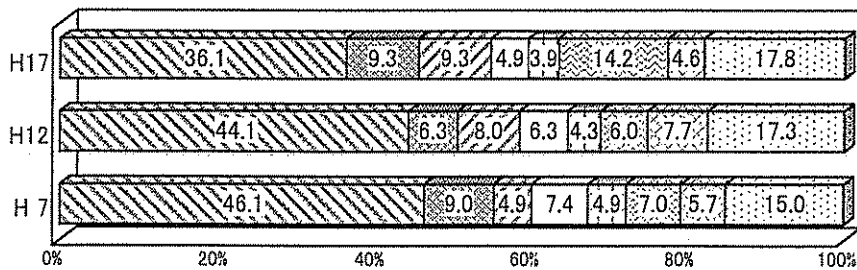
朝食

毎日一人では食べない小学生が全体の3/4、中学生は半数である。

(小学校5年生)



(中学校2年生)



- ・小学生は、14.9%が週に3回以上一人で朝食を食べており、そのうち毎日一人で食事をしているのが3.0%である。
- ・中学生は、17.8%が毎日一人で朝食を食べている。
- ・一人で食事をするのがない小学生は増加傾向にあるが、中学生は減少傾向にある。

いろいろな『こ食』知っていますか？

孤食 …… 家族が在宅しているにもかかわらず、1人で食事すること

子食 …… 子どもたちだけで食事すること

個食 …… 同じ食卓を囲みながら別々の料理を食べること

不登校の状況

「平成18年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果」より

1 不登校の状況について

- (1) 公立小学校における不登校児童数は、467人で前年度より8人増加した。〈表(1)〉
公立中学校における不登校生徒数は、1,285人で前年度より1人増加した。〈表(1)〉
- (2) 小中学校合わせた不登校児童生徒数は前年度より9人増加し、在籍率は0.01ポイント増加した。
〈表(2)〉
- (3) 不登校状態が継続している理由については、今回から調査方法が変わったため、前年度との比較はできないが、小中学校ともに「登校の意志はあるが身体の不調を訴え登校できない、漠然とした不安を訴え登校しない」等、不安を中心とした情緒的混乱によって登校しない(できない)児童生徒が最も多い。
〈表(3)〉
- (4) 指導の結果、登校するまたはできるようになった児童生徒数は、大きく増加し、小学校では不登校児童の36%にあたる168人、中学校では45%にあたる578人が年度内に登校する(できる)ようになった。
〈表(4)〉
- (5) 「指導の結果、登校するようになった児童生徒」に特に効果があった学校の措置は、小学校・中学校ともに「家庭訪問を行い、学業や生活面での相談に乗るなど様々な指導・援助を行った」が最も多く、次いで、小学校では「登校を促すため、電話をかけたたり迎えに行くなどした」、中学校では「スクールカウンセラー、相談員等が専門的に相談にあたった」が多くなっている。
〈表(5)〉

2 不登校問題への対応について

- (1) 小学生と年齢の近い大学生等をスクーリング・ケアサポーターとして学校(別室)・適応指導教室・家庭に派遣することにより、教室に行けなかった152人のうち58人が教室に行けた。また、スクーリング・ケアサポーターが関わった総児童数311人のうち、その92%にあたる286人に好転(欠席日数が減ったり、戸外に出られるようになったなど)が見られた。そこで、本年度は、訪問回数を4,000回から5,000回に拡充して実施している。〈別紙1〉
- (2) 14小学校に配置した小学校心のオアシス相談員がのべ453件の不登校の相談に応じ、児童の悩みを受け止めたり、ストレスを軽減したりすることにより、不登校の未然防止を図った。本年度は、友人とのトラブルからくる不安を和らげたり、適切な人間関係づくりの支援をさらに図るため、14小学校から30小学校に拡充して、相談員を配置している。〈別紙2〉
- (3) 全中学校と高等学校7校(拠点校)にスクールカウンセラーを配置した。
不登校児童生徒や保護者へのカウンセリングを行ったり、教師等への助言を行った結果、スクールカウンセラーが関わった1,007人の不登校児童生徒のうち310人が教室復帰できたり、登校できるようになった。〈別紙2〉

- (4) 平成17年度から、別室指導による教室復帰推進校（5小学校・10中学校）を指定し、別室担当教員の専任化により、不登校児童生徒の個別支援を充実させ、早期に教室復帰ができるように取り組んでいる。

小学校では、33人の児童が別室で指導・支援を受け、19人が教室復帰できた。

中学校では、111人中の45人が教室復帰できた。

なお、これらの学校を含めて小学校88校、中学校79校が別室指導を行っており、「指導の結果登校できるようになった児童生徒」に特に効果のあった学校の措置として、「別室登校」を挙げている学校は小学校で53校、中学校で67校であった。〈別紙3〉

- (5) 平成18年度からスクールソーシャルワーカーと指導主事が20小学校を巡回し、不登校児童を取り巻く環境の調整・改善をめざしたケース会議の指導・支援にあたった結果、対象校における不登校児童数が平成17年度より18人減少した。このような効果が見られたことから、スクールソーシャルワーカー的學校不適応支援事業として本年度は20小学校から40小学校に拡充して、実施している。

〈別紙3〉

- (6) 県心の教育相談センターでは、不登校対応コーディネーター養成研修を平成16年度から実施し、5カ年計画で教員の資質向上を図っている（平成16・17・18年度で小学校98名、中学校56名、県立学校33名が受講）。これらの研修により、各学校で教育相談体制の中心的な役割を果たす教員を育てている。

- (7) 今後、これらの不登校児童生徒への個別の支援を充実させるとともに、不登校児童生徒を生まない学校づくりを一層進めることが重要である。特に、友人関係をめぐる問題をきっかけとして、不登校になる児童生徒が少なくないことから、コミュニケーションスキルを取り入れた学級づくりを進めたり、様々な体験活動を充実させることにより、人間関係を築く力を培う教育に力を入れていきたい。

不登校の状況について

(1) 小学校・中学校別不登校児童生徒数(30日以上欠席)

	小学校(公立)			全国小学校(公立)		中学校(公立)			全国中学校(公立)	
	児童総数	不登校児童数	在籍率(%)	不登校児童数	在籍率(%)	生徒総数	不登校生徒数	在籍率(%)	不登校生徒数	在籍率(%)
平成14年度	84,472	638	0.76	25,762	0.36	44,539	1,470	3.30	103,442	2.87
平成15年度	84,248	500	0.59	23,977	0.34	43,274	1,374	3.18	100,065	2.87
平成16年度	84,481	492	0.58	23,186	0.33	41,624	1,325	3.18	97,802	2.88
平成17年度	84,883	459	0.54	22,566	0.32	41,008	1,284	3.13	96,972	2.89
平成18年度	85,602	467	0.55	23,643	0.33	40,266	1,285	3.19	99,857	3.01

(2) 不登校児童生徒数(30日以上欠席)

	滋賀県小中学校(公立)			全国小中学校(公立)	
	児童生徒総数	不登校児童生徒数	在籍率(%)	不登校児童生徒数	在籍率(%)
平成14年度	129,011	2,108	1.63	129,204	1.20
平成15年度	127,522	1,874	1.47	124,042	1.17
平成16年度	126,105	1,817	1.44	120,988	1.15
平成17年度	125,891	1,743	1.38	119,538	1.15
平成18年度	125,868	1,752	1.39	123,500	1.19

(3) 不登校状態が継続している理由(構成比%)

小学校

	滋賀県(公立)									
	学校生活上の影響				あそび・非行	無気力	不安など情緒的混乱	意図的な拒否	複合	その他
平成14年度	1.1				0.8	15.2	39.8	1.9	29.5	11.8
平成15年度	2.0				0.2	16.4	40.4	2.2	31.0	7.8
平成16年度	3.7				0.6	18.9	40.9	5.3	25.8	4.9
平成17年度	2.8				0.2	20.0	43.1	3.9	23.1	6.8
平成18年度	いじめ	いじめを除く他の児童生徒との関係	教職員との関係	その他の学校生活上の影響	3.3	15.0	51.7	4.0		10.2
	0.8	8.9	1.4	4.5						
	全国(公立)									
	学校生活上の影響				あそび・非行	無気力	不安など情緒的混乱	意図的な拒否	複合	その他
平成14年度	4.7				0.9	17.6	32.0	3.5	30.7	10.6
平成15年度	4.8				0.7	17.7	32.6	3.6	30.8	9.9
平成16年度	5.2				0.9	19.1	36.9	3.8	23.4	10.8
平成17年度	5.2				0.6	20.5	36.1	3.6	23.0	11.0
平成18年度	いじめ	いじめを除く他の児童生徒との関係	教職員との関係	その他の学校生活上の影響	0.9	24.8	37.6	5.2		16.9
	1.0	7.5	1.5	4.6						

中学校

	滋賀県(公立)									
	学校生活上の影響				あそび・非行	無気力	不安など情緒的混乱	意図的な拒否	複合	その他
平成14年度	3.1				11.1	17.4	33.8	5.3	24.4	5.0
平成15年度	5.2				9.5	18.0	33.3	3.9	27.5	2.7
平成16年度	9.2				7.2	20.9	30.9	5.7	22.3	3.7
平成17年度	8.3				5.5	23.0	37.5	5.7	17.9	2.2
平成18年度	いじめ	いじめを除く他の児童生徒との関係	教職員との関係	その他の学校生活上の影響	5.3	21.7	41.1	5.3		4.1
	0.8	12.9	0.2	8.6						
	全国(公立)									
	学校生活上の影響				あそび・非行	無気力	不安など情緒的混乱	意図的な拒否	複合	その他
平成14年度	7.0				12.2	20.7	24.7	5.1	26.0	4.3
平成15年度	6.7				11.4	20.4	25.4	4.7	27.1	4.3
平成16年度	7.4				10.5	22.3	29.1	5.0	20.8	4.9
平成17年度	7.4				9.8	23.1	29.8	5.3	19.9	4.8
平成18年度	いじめ	いじめを除く他の児童生徒との関係	教職員との関係	その他の学校生活上の影響	10.1	25.2	29.9	5.9		8.2
	1.0	12.0	0.8	7.0						

※ 平成18年度は複数回答

(4) 指導の結果、登校するまたはできるようになった児童生徒数

	小学校(公立)		全国小学校(公立)	中学校(公立)		全国中学校(公立)
	指導の結果、登校するまたはできるようになった児童数	再登校率(%)	再登校率(%)	指導の結果、登校するまたはできるようになった生徒数	再登校率(%)	再登校率(%)
平成14年度	147	23.0	27.0	309	21.0	25.1
平成15年度	120	24.0	28.7	424	30.9	26.2
平成16年度	125	25.4	29.1	361	27.2	25.7
平成17年度	165	35.9	32.5	499	38.9	29.7
平成18年度	168	36.0	32.5	578	45.0	29.9

(5) 「指導の結果、登校するようになった児童生徒」に特に効果があった学校の措置

	小学校(公立)		全国小学校(公立)	中学校(公立)		全国中学校(公立)
	校数(校)	割合(%)	割合(%)	校数(校)	割合(%)	割合(%)
研修会等による全教師の共通理解	65	44.8	31.8	46	47.9	44.8
学校全体で指導にあたった	58	40.0	25.1	35	36.5	37.9
教育相談担当の教師が専門的に指導	48	33.1	11.2	42	43.8	24.5
養護教諭が専門的に指導	31	21.4	17.1	42	43.8	33.3
スクールカウンセラー・相談員等が専門的に指導	47	32.4	20.3	71	74.0	58.3
友人関係改善のための指導を実施	55	37.9	25.3	49	51.0	40.3
教師との触れ合いを基に関係を改善	60	41.4	27.0	45	46.9	39.2
授業方法の改善、個別の指導を実施	35	24.1	14.6	24	25.0	20.1
意欲をもって活動できる場の設定	64	44.1	26.3	38	39.6	30.7
保健室等別室への登校	53	36.6	24.7	67	69.8	53.6
登校を促す電話や迎えの実施	83	57.2	40.2	61	63.5	60.7
家庭訪問による指導・援助	85	58.6	38.2	75	78.1	67.7
家族関係や家庭生活の改善	68	46.9	33.4	48	50.0	48.3
教育相談センター等の相談機関との連携	44	30.3	18.9	45	46.9	34.7
病院等の医療機関との連携	17	11.7	8.4	24	25.0	18.6
その他	1	0.7	3.6	4	4.2	6.7

※ 複数回答

※ 割合(%)は、回答校数を不登校児童生徒が在籍する学校数(小学校145校、中学校96校)で除したのもの。

資料 不登校状態が継続している理由 (文科省が示している調査記入例)

- いじめ
 - ・いじめを受けているため登校できない。
- いじめを除く他の児童生徒との関係
 - ・クラスになじむことができないなどの問題で登校できない。
- 教職員との関係
 - ・教職員との人間関係で登校できない。
- その他の学校生活上の影響
 - ・授業がわからない、試験が嫌いであるなどの上記以外の学校生活上の影響で登校できない。
- あそび・非行
 - ・遊ぶためや非行グループに入ったりして登校しない。
- 無気力
 - ・無気力でなんとなく登校しない。登校しないことへの罪悪感が少なく、迎えにいたり強く催促すると登校するが長続きしない。
- 不安など情緒的混乱
 - ・登校の意志はあるが身体の不調を訴え登校できない、漠然とした不安を訴え登校しない等、不安を中心とした情緒的な混乱によって登校しない(できない)。
- 意図的な拒否
 - ・学校に行く意義を認めず、自分の好きな方向を選んで登校しない。
- その他
 - ・上記のいずれにも該当しない。

1 スクーリング・ケアサポーター事業について

(1) 派遣回数と派遣人数

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	H18年度
派遣市町	11市町 / 50	21市町 / 50	29市町 / 50	21市町 / 33	22市町 / 26	18市町 / 26
派遣回数	1027回	1500回	1500回	2500回	4000回	4000回
派遣人数	25人	47人	50人	77人	84人	80人

※メンタルフレンド派遣事業 (H13~H15) をさらに拡充して、
H16よりスクーリング・ケアサポーター事業として実施。

(2) 派遣先

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
家庭	34%	24%	20%	14%	9%	7%
学校	44%	44%	54%	73%	76%	82%
適応指導教室	22%	32%	26%	13%	15%	11%

※スクーリング・ケアサポーター事業では、比較的欠席日数の少ない児童への
支援を重点的に行う。学校の別室への派遣時間が増加。

(3) 関わった児童数と児童の変化

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
関わった児童数	104人	219人	315人	311人
好転が見られた児童	79人(76%)	192人(88%)	283人(90%)	286人(92%)
教室に行けなかった児童の うちの教室に行けた児童	37人 / 69人 (54%)	32人 / 97人 (33%)	55人 / 149人 (37%)	58人 / 152人 (38%)

※好転が見られた・・・「教室に行けた」以外に

- ・全日欠席状況の児童が 適応指導教室に行けるようになった
表情が明るくなり戸外に出られるようになった。
- ・欠席の多かった児童の欠席が減った。
- ・登校はできているが、不適応を起こし、行き渋りなどが見られた児童が学校やクラスに
適応でき、安定した生活が送れるようになった。
- ・不登校状況や不登校傾向にある児童の表情が随分と明るくなった。等

別紙 2

2 オアシス相談員配置校(14小学校)の状況

(1) 平成18年度の相談件数

	友達	学業	性格	家族	不登校	いじめ	その他	計
14小学校計	603	206	149	142	453	22	566	2,141 (件)

(2) 平成16年度～18年度の不登校児童数

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
14小学校計	64 人	60 人	58 人

3 スクールカウンセラーによる不登校児童生徒への対応状況

(1) 平成18年度の不登校児童生徒に関する相談人数・件数

	対象児童生徒 実数	相談人数			のべ相談件数					不登校の 校内研修 等の回数
		児童生徒	保護者	教職員	児童生徒	保護者	生徒と 保護者	教職員	合計	
小学校	81	22	45	71	54	77	8	101	240	11
中学校	926	422	455	743	2,008	1,444	142	3,174	6,768	111
合計	1,007	444	500	814	2,062	1,521	150	3,275	7,008	122

(2) スクールカウンセラーの関わりによる不登校児童生徒の変容

	小学校	中学校	合計
教室に入れなかった児童生徒が教室復帰ができた。	8 人	108 人	116 人
登校できなかつた児童生徒が登校できるようになった。	2 人	192 人	194 人
合計	10 人	300 人	310 人

4 平成18年度 別室指導による教室復帰推進校の状況

(1) 小学校の状況

	4月～3月に別室指導を行った児童数							別室児童の状況		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	継続して別室で学習	別室と教室で学習	教室完全復帰
小学校計	0	3	2	6	9	13	33	12	10	9

- 別室で33人の児童が指導を受け、19人が教室復帰できた。うち9人は、完全に教室へ戻れた。
- 引きこもり傾向にある児童が別室へ登校できるようになり、本人・保護者も安心している。
- 教室の授業にはいけなくても、運動会や校外学習、学年行事等に参加できるようになった児童も多い。

(2) 中学校の状況

	4月～3月に別室指導を行った生徒数							別室生徒の状況		
	1年	2年	3年				計	継続して別室で学習	別室と教室で学習	教室完全復帰
中学校計	16	44	51				111	61	30	15

- 別室で111人の生徒が指導を受け、45人が教室復帰できた。うち15人は、完全に教室へ戻れた。
- 現在も継続して別室で学習している生徒は61人であるが、教室の授業にはいけなくても、体育祭や職場体験学習等に参加できるようになった生徒も多い。また、高校受験できた生徒も多い。
- 夜間や放課後登校を経て、教室復帰しているケースもある。
- 進路が決まり、自信をつけ、高校への希望を持つ生徒もいれば、環境の変化を不安に思い、再び不登校に陥る生徒もいる。

5 スクールソーシャルワーカーによる学校支援の状況

(1) 対象校（小学校20校）におけるケース会議の回数

- ①グループ協議のべ7回、ケース会議のべ78回
- ②派遣回数 SSW60回、指導主事95回、研究員23回

(2) 対象校の不登校児童数

	H17	H18
対象校の総不登校児童数	114人	96人

(3) ケース会議の参加者対象のアンケート（5点満点）

①ケース会議の満足度

・子どもの理解につながった	4.4
・指導、支援の方策が見出せた	4.0
・連携が図れた	4.0

②コーディネート機能への満足度

・メンバー選定がうまくいった	4.3
・昨年度までの支援より効果が上がった	4.2
・ケース会議についての理解が深まった	4.2

